

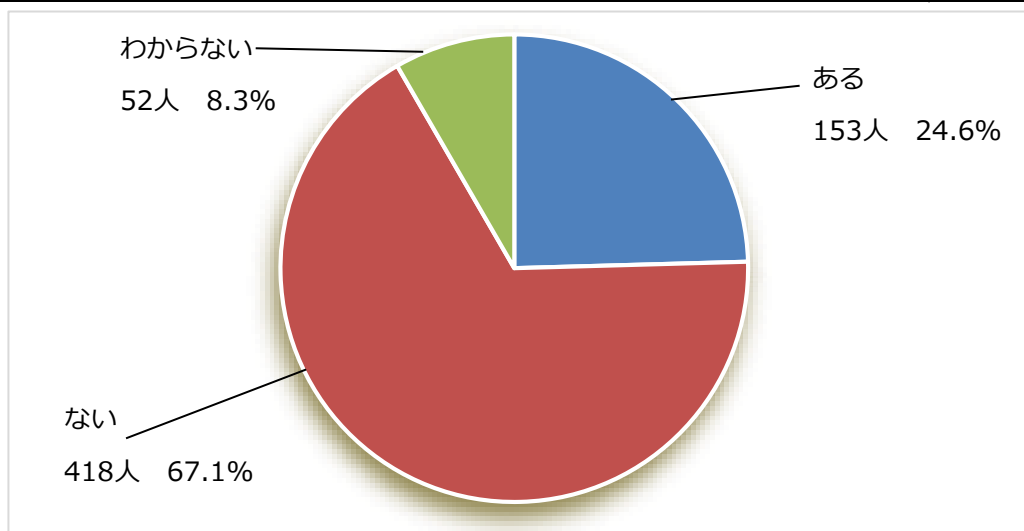
「県民の声ミニアンケート」の結果

(令和4年4月実施)

Q ウイルス性肝炎は、国内最大級の感染症といわれ、感染しても自覚症状のない間に肝がんなどの重篤な病気に進行している場合があります。あなたは、肝炎ウイルス検査（市町村および職域の検診を含む）を受けたことがありますか？

A 回答結果（有効回答数623人）

回 答 項 目	回答数(人)
① ■ ある。	153
② ■ ない。	418
③ ■ わからない。	52



「ウイルス性肝炎」とは

ウイルス性肝炎は、A、B、C、D、E型などの肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。A型、E型肝炎ウイルスは主に食べ物を介して感染し、B型、C型、D型肝炎ウイルスは主に血液を介して感染します。中でもB型、C型肝炎ウイルスについては、感染すると慢性の肝臓病を引き起こす原因ともなります。肝炎になると、肝臓の細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなります。一部の方では、倦怠感、食欲不振、吐き気、黄疸（皮膚が黄色くなること）などの症状が出ることがありますが、全く症状が出ないことも少なくありません。肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査でわかります。

肝炎ウイルスに感染していることがわかったら

肝炎ウイルスのキャリア※では、全く自覚症状がなくても、肝機能検査で異常値を示すことがあります。また、検査の値が変動し、知らない間に病気が進行することがあります。このため、肝炎ウイルスのキャリアであることがわかったら、医療機関を受診して、肝臓の状態をチェックするための検査や指導を定期的に受け、健康管理に役立てるとともに、必要に応じて適切な治療を受けることをお勧めいたします。

※肝炎ウイルスのキャリア：肝臓の中に肝炎ウイルスが住みついている（持続的に感染している）状態
B型やC型肝炎ウイルスは、主に感染している人の血液が体の中に入ることによって感染しますが、ごく常識的な注意事項を守っていれば、日常生活において周囲の人への感染はほとんどありません。以下のような事項を守るように注意して下さい。

- ・歯ブラシ、カミソリなど血液が付く可能性のあるものを共用しない。
- ・血液や分泌物がついたものは、しっかりくるんで捨てるか、流水でよく洗い流す。
- ・外傷、皮膚炎、鼻血などはできるだけ自分で手当をする。手当を受ける場合は、手当をする人は手袋を装着するなど、血液や分泌物に直接触れないように注意をする。
- ・口の中に傷がある場合は、乳幼児に口移して食物を与えない。
- ・献血はしない。

一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう

肝炎ウイルスのキャリアであっても、定期的に肝臓の状態をチェックし、その状態に見合った健康管理に努めていけば、日常生活の制限などはほとんど必要ありません。さらに、近年、医療の進歩によって、ウイルス自体を体の中から排除する薬剤も数多く開発され、完治が期待できる肝炎もあります。特にC型肝炎については完治できる時代になっています。

県では全県民が一生に一度は肝炎ウイルス検査を受検することを目指し、周知に取り組んでいます。肝炎についての理解を深めるとともに、ご自分の身体の状態を知るために、これまで肝炎ウイルス検査を受けたことのない方は、一度は受けるようにしましょう。

問い合わせ先：福島県保健福祉部地域医療課（024-521-7238）